

## 「松本市文化芸術振興審議会」第7回審議会の議事概要

- 1 日時 平成28年1月29日（金）午前9時から12時まで
- 2 場所 大手会議室A（大手事務所6階）
- 3 出席者 （委員） 笹本会長、花輪副会長、山根委員、小松委員、宮嶋委員、瀧沢委員、倉澤委員、小澤委員、辻本委員、佐久間委員  
（事務局） 寺沢文化スポーツ部長、久保田文化振興課長、原文化振興課課長補佐、村井文化振興担当係長、小林主査

### 4 議事等

- (1) 開会
- (2) 議事

(会長) 今回で答申をとりまとめる審議であり、審議を公開することにより、意思決定の中立性、率直な意見交換を不当に損ねる恐れがあることから、松本市付属機関等の設置機関に関する要綱第5条第2項の規定により、会議は非公開としたい。

#### 【松本市文化芸術振興基本方針改定案について】（事務局説明）

(会長) 改定案は、当初の資料からずいぶん変わり、だいぶ松本らしくなったと思う。審議会の意見がほぼ吸い上げられている。素案が3部構成になっているので順を追って意見を聞き、最終形をこの会議で判断したい。

#### 【第1 基本方針改定の基本的な考え方と現状認識】

(委員)

- 全体としてはいいと思う。
- わかりやすくなった。「三ガク都」でしっかりとまとめられているので、こういう風にしていきたいというものが明確に出てきたと思う。
- アスタリスクが付けられているものは何か？

(事務局)

- 用語説明の候補の印。答申は本文だけだが、冊子にする際には、手にとりたくなるようにカラー写真を入れ、また、読み物的な要素、統計資料を入れるなど工夫したいと考えている。

(委員)

- ソフト事業中心の組立てという表現があるが、ソフト事業という表現は一般的か？
- 用語説明をつけ、私たちが考えている具体的なソフト事業の例を挙げるのはどうか？
- 冊子は、どういう範囲でこういった形で市民の目に触れるようにするのか？

(事務局)

- 「広報まつもと」で市民周知をする予定。また、データ版をホームページで公開したいと考えている。

(委員)

- 興味のある人は、紙ではなくウェブ上で見るのが主流。冊子は博物館や美術館等見る

べき人に近い場所をお願いしたい。広報はホームページのどこから入るのかわかりやすく。無料配付のものはあまり見ない。自分でダウンロードすると意識も変わってくる。

○ 簡易版があるといい。

(事務局)

□ 概要版はデータ版で作る予定。自ら入手してもらおう環境で用意する。

(委員)

○ 本文には、中心市街地のお祭りの記述が目につく。写真の方では、地域性も重視してほしい。

(会長) 基本的な考え方と現状認識は、審議会としてこれで問題なしとしたい。

広報・写真選定に関しては注意深く行い、市民に手に取ってもらえるようなかたちに配慮することを付帯意見としたい。これでよろしいか？

(委員) 異議なし

## 【第2 基本方針及び分野方針】

(会長) 分野方針のキャッチフレーズは、第3回～第6回の会議で扱った。基本方針とこれに至る考え方、基本的数値目標については初めての部分なので意見ををお願いしたい。

(委員)

○ 分野方針のIV（連携・交流・活用等）の表現が気になる。

○ 長い気がする。前提的な記述は他の部分で扱えないか？

○ イノベーションという言葉は使わなければならない言葉か？

○ 文化芸術を使って人間が豊かになっていって元気になって地域の活性につながるということが主旨。文化芸術が地域の元気のためにあるわけではない点留意してほしい。

○ イノベーションという言葉は、文化芸術に理解のある市民3割を主体とした表現。理解のない人や理解者になりうる人を意識すると抜いた方がいい。多くの人の共感を得るためには、文化芸術は必要だという理解を広げたい。

(会長) イノベーションにつながっていくという発想は、全体をカバーする「第1」で触れてほしい。一人ひとりが豊かになって、それを前提にして文化を通して人が横につながり、さらには地域が良くなっていくという取組みを進めるという趣旨で今出た意見を参考に事務局で見直してほしい。

(委員)

○ 基本方針の「ワクワク、ドキドキ」はセットのイメージなので「ワクワク・ドキドキ」がいい。

○ 「誰もが多様な文化芸術に気軽に触れ、ワクワク・ドキドキする環境をつくり、生きがいと新たなうねりにつながる人づくり、まちづくりを進めます」でどうか？

○ ワクワク・ドキドキが環境をつくるのではなく、そういう環境がワクワク・ドキドキになるのでこのままでよい。環境の枕詞になるのではなく、これが中心にあるのがよい。

- 「誰もが多種多様な文化芸術に気軽に触れ、ワクワク・ドキドキが生きがいと新たなうねりにつながるまちづくり、人づくりを進めます」でどうか？

(会長) その言葉でよいのでは？いかがか？

(委員) 異議なし

(委員)

- 「鑑賞につなげる取組みの実施」がきちんと書かれていてよい。
- 基本方針をつくった後、子どもたちにはどうやって伝えるのか？
- 逆に質問したい。子どもがどういう部分を知ったら感性も豊かになると思うか？
- 子どもたちにどう知らせるかは教育委員会も含めて考えないといけない。それと同時にどうしたら興味を引くか。子どもだけに特化するのではなく年代別の取組みも意識が必要。具体的な展開例の中でそういうことも考えていくという文面があるとだいぶ違ってくる。

- 審議会は、進行管理に関わることになるのか？意見を言える場は？

(事務局)

- 施策の展開例に示す事業は、進行管理の対象としている。指標づくりは今後に譲っているものの、来年度の前半くらいに庁内で見通しをつけ、審議会でも扱いたいと考えている。また、2、3年後の中間評価、最終年度の最終評価で審議会のチェックをお願いしたい。総合的にみてどんな文化振興策が必要なのか等も議論の対象となる。

(会長) 「第2 基本方針及び分野方針」について他に意見がないようなら了解したということよろしいか？

(委員) 異議なし

### 【第3 基本的施策】

(会長) これについても第3回～第6回の各論で扱った内容。ご発言願いたい。

(委員)

- II (環境整備・充実) のキャッチフレーズにある「環境から得た共感と感動」とは？共感が必要か？得た感動でいいのでは？
- 共感では、共有しているということをお願いしたいと思う。感動は個人的なもの
- 芸術は活動も入るので、みんなで練習して共感するところもある。鑑賞だけではない。「環境から得た」という表現はいかがかと思う。
- 一番の肝はどこか？共感と感動が生きがいにつなげる仕組みをつくることなのか？芸術活動の裾野を広げることなのか？

(事務局)

- 仕組みをつくることとそれによって広がりを持たせることの両方

(委員)

- 「優れた文化芸術活動に触れる機会が多いという恵まれた環境」までを「松本らしい環境」でシンプルにするという案はどうか？

(事務局)

- 松本はいろんなチャンスがあるが、知らない市民も多い。その部分をこの短い文章で伝えたい。

(委員)

- 「優れた文化芸術に触れる機会の多さを生かし、共感と感動が生きがいにつながる環境と仕組みをつくり、市民による文化芸術活動の裾野を広げます。」でどうか？
- 異議なし

(委員)

- Ⅲ（人材育成・確保）で、子どもと若手には触れているが他の世代に触れていないのが気になる。
- 各世代を考慮し参加者、鑑賞者の土台を向上させていくという視点がほしい。シニアに限らず各世代とした視点で。専門家を養成するだけでなく鑑賞者も養成しなければいけない。支える人たちも養成していかなければならない。
- 以前の各論でもⅡの環境整備でシニア層や働く世代への取組みをどうするのか等の議論をした。その点を少し入れてほしい。我々も論議を通じて進化している。論議を通じて気がついたことはたくさんある。Ⅲは、この書き方だと対象が専門家のようになっていて一般市民の鑑賞者やバックアップする人たちが消えてしまっている。

(会長) すべての世代が人材育成の対象になるという視点をどこかに入れて、各世代の担い手の育成にも努力するという趣旨の文言をどこかに入れるよう調整してほしい。他には？

(委員)

- Ⅲ（人材育成・確保）の(1) 文化芸術に関心を高めるための子どもたちへの取組み ア 現状と課題の1つ目の表現が分かりにくいので見直してほしい。また、同じところのイ 取組方針の2つ目もどこで何を取り組むのか書かれていないので見直した方がよい。
- Ⅳ（連携・交流・活用等）の分野方針に、産業という意味で工芸をもう少し捉えた方がいい。日常的に作る基軸をどうしていくかというのは弱い部分。商工課でものづくり伝承塾をやっているが位置づけがない。松本市は歴史的にも行政として民芸というものを押したベースがある。民芸もこのままでいくと産業としては近々消えかねないので入れたほうがいいと思う。
- Ⅰ（総合的施策の推進）でセイジ・オザワ 松本フェスティバル、信州まつもと大歌舞伎、工芸の五月・クラフトフェアが挙げられているが、他の分野方針にも関係するものがあると思うが入っていないのはなぜか？

(事務局)

- 現行の基本方針では、似たようなものが項目を変えてたくさんあって、結局、管理できなかったことから、今回は最も関連ある分野方針のところに位置づけて重複を避ける整理をしたことによるものだ。

(委員)

- 基本的施策に書いてあるのは今までやっていることが中心だ。やってきていないことでも、こういうことは大事だから積極的にやっっていこうということがないといけない。工芸の五月についても市としての位置づけが全くない。5年後あるかも分からない。ぜひここに位置付けたほうがよい。
- III（人材育成・確保）の(3) 文化芸術専門職の育成・資質向上のところで大学連携を書いたほうがよい。

(会長) 基本的な部分については検討を終えたと思っている。今の論議を基に再度事務局で表現を見直すということによいか？

(委員) 異議なし

【その他全体を通しての意見、要望事項】(各委員)

- 今後、どのように具体的な展開を落とし込んでいくかが大切なので、審議会が関与できる場を設定してほしい。
- 当審議会に集まった人たちは文化芸術に理解のある人たちであり、ここで論議することですぐぶん勉強もさせてもらった。これから先、違うところでも委員を「活用」してほしい。
- 経験上、策定しても2年位でまた元に戻ってしまうものもある。PDCAと言っても、全部の事業をみるのは難しい。興味のある事業に関わりたいという委員がせっかくなるので、現場をみてもらえるといい。
- 松本は、外部から羨ましがられる。しかし、建物の中だけで現状終わっている気がする。文化関係の経費は、松本は非常に高い。これは松本市民としては恵まれていると考えたいが、そのために住民がそれを皆で享受できるような環境をつくりたい。市民は幸せだねと言えるようにしてほしいし、こちらも努力する。

(事務局)

- 6月3日の委員委嘱から本日までの間、ご熱心に議論いただいたことに感謝申しあげます。これまで改定に手が付けられなかった現状のなかで、松本市の文化芸術とは何か、どんな特長があって、今後どういった課題があるのか等審議のなかで認識できたことは大きく、今後松本らしい文化芸術振興基本方針に大きく転換できるものと確信した。

今後、本日いただいた意見を踏まえ会長から市長に対し答申を行う運びとなるが、来年度以降も冊子作成や進行管理等にも携わっていただきたいので、引続きよろしく願いしたい。